

(1) 麦類

ア 各病害虫の防除

赤かび病

うどんこ病

株腐病

赤さび病、さび病

立枯病

なまぐさ黒穂病、裸黒穂病、斑葉病

縞萎縮病、萎縮病

アブラムシ類

バクガ

ムギアカタマバエ

ア 各病虫害の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病虫害)

赤かび病

(耕種的・物理的防除)

- 1 無発病は場から採種する。

(薬剤防除) 農薬登録情報 [【大麦】](#)・[【小麦】](#)

- 1 開花始めから開花最盛期にかけて、薬剤を散布する。

うどんこ病

(薬剤防除) 農薬登録情報 [【大麦】](#)・[【小麦】](#)

- 1 開花始めから開花最盛期にかけて、薬剤を散布する。

株腐病

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病の多いは場では連作しない。
- 2 早播きを避ける。
- 3 過度の土寄せを避ける。
- 4 加里や石灰を多く施用し、肥料切れを避ける。

赤さび病、さび病

(薬剤防除) 農薬登録情報 [【大麦】](#)・[【小麦】](#)

- 1 発病初期から薬剤を散布する。

立枯病

(耕種的・物理的防除)

- 1 3～4年ほど輪作する。
 - 2 肥料切れしないようにし、りん酸を多く施用する。
 - 3 転換畑の場合、夏期(7～8月)に30日以上、湛水処理を行う。
- ※火山灰地では石灰を多く施すと発病が増加する傾向がある。

なまぐさ黒穂病、裸黒穂病、斑葉病

(耕種的・物理的防除)

- 1 冷水温湯浸法又は風呂湯浸法により種子を消毒する。
 - (1) 冷水温湯浸法
大麦：冷水に一定時間(10℃で6時間、18℃で3時間)浸した種子を47～48℃の湯で約1分間温め、直ちに52℃の湯に正確に5分間浸漬した後、冷水で急冷する。
小麦：冷水に約6時間浸した種子を50～51℃の湯で1～2分間温め、直ちに55℃の湯に正確に5分間浸漬した後、冷水で急冷する。
 - (2) 風呂湯浸法
風呂湯で小麦なら46℃にして6～10時間、大麦や裸麦なら42℃にして10時間浸し、取り出して簡単に陰干し、その日には種する。
- ※湯の温度と時間を厳守する。
- 2 病穂は黒粉が飛び散らないように抜き取り処分する。

(薬剤防除)

- 1 薬剤により種子を消毒する。
なまぐさ黒穂病 農薬登録情報 [【小麦】](#)・[【大麦】](#)

裸黒穂病 [農薬登録情報](#)

斑葉病 [農薬登録情報](#) [【小麦】](#)・[【大麦】](#)

縞萎縮病、萎縮病

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病の多いほ場では、5～6年は麦を作付けしない。但し、大麦縞萎縮病発生地なら小麦を、小麦縞萎縮病発生地なら大麦を2～3年作る。
 - 2 発病ほ場の土を持ち込まない。農機具に付着した土は洗い流す。
 - 3 排水を良くする。
 - 4 抵抗性品種を作付ける。(「さとのそら」の縞萎縮病抵抗性は強である。)
- ※両病害は土壤中のポリミキサ菌が媒介する土壤伝染性のウイルス病である。
※大麦縞萎縮病は大麦のみ、小麦縞萎縮病は小麦のみに発生するが、萎縮病は大麦と小麦の両方に発生する。
※は種後温暖多雨の年は発病が多くなる。
※感染適温は地温15℃前後であり、潜伏期間は約2週間である。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 縞萎縮病には、は種前に薬剤を施用する。

アブラムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【大麦】](#)・[【小麦】](#)

- 1 発生初期から薬剤を散布する。

バクガ

(耕種的・物理的防除)

- 1 刈取り後は脱穀調製を速やかに行い、よく乾燥させる。

ムギアカタマバエ

(判断、防除に関する措置)

- 1 本虫の老齢幼虫は刈取り前の雨天時に穂から地面に落下して地中で越冬・越夏する。早春に蛹化し、出穂期に羽化する。成虫は主に夕方活動し、穂に産卵する。

(薬剤防除) ※小麦のみ [農薬登録情報](#)

- 1 出穂期から穂揃期にかけて、薬剤を散布する。